



“地域のことは地域で考えよう”

2016年12月27日

おきぎん県内景況・速報 2016年11月

— 県内景況は、拡大している —

■ 個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。
百貨店売上高は前年同月を下回る。
家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は上回る。

■ 建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。
生コンは前年同月を上回り、セメントは横ばい。

■ 観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数は下回る。
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■ 企業倒産

件数は前年同月を下回り、負債総額は上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2016年11月分)

◎2016年11月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

11月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回りました。百貨店売上高は催事の未開催により「食料品」などの売れ行きが落ち込み、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、冷蔵庫やエアコンの売上増加などにより前年同月を上回りました。新車販売台数は普通乗用車などの需要増加から前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、沖縄県や市町村発注による工事増加などで前年同月を上回りました。建設資材である生コンは前年同月を上回り、セメントは同水準で推移しました。

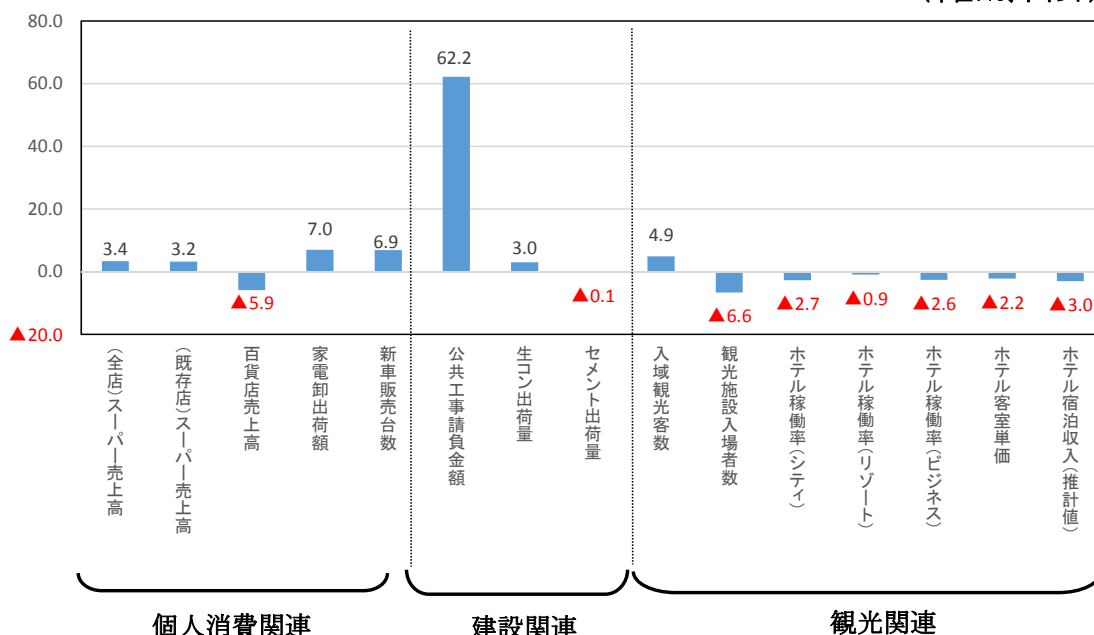
観光関連では、入域観光客数は50ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から34ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



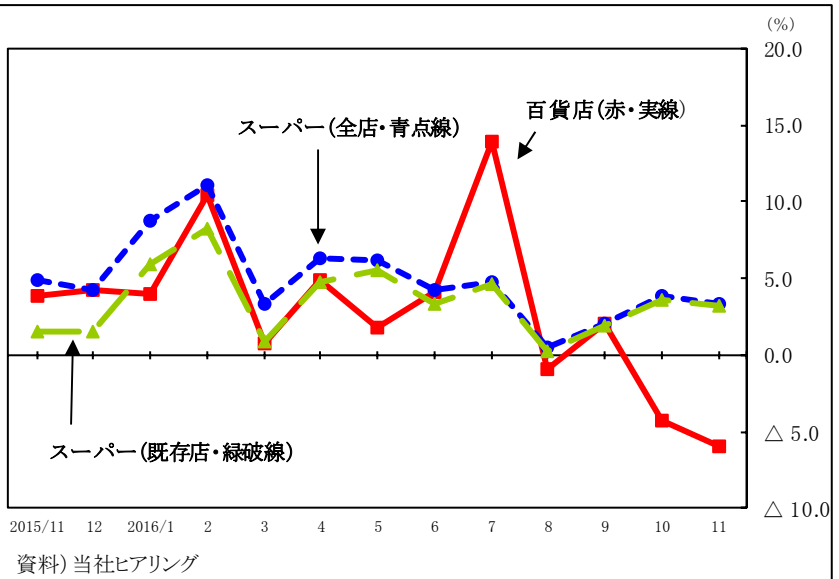


■個人消費: (やや良い)

①スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位: %

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2015/11	4.9	1.5	3.8
12	4.2	1.5	4.2
2016/1	8.8	5.9	4.0
2	11.1	8.3	10.5
3	3.3	0.9	0.7
4	6.3	4.8	4.9
5	6.2	5.5	1.8
6	4.2	3.3	4.1
7	4.8	4.6	13.9
8	0.5	0.2	△ 0.9
9	2.1	1.9	2.0
10	3.8	3.6	△ 4.3
11	3.4	3.2	△ 5.9

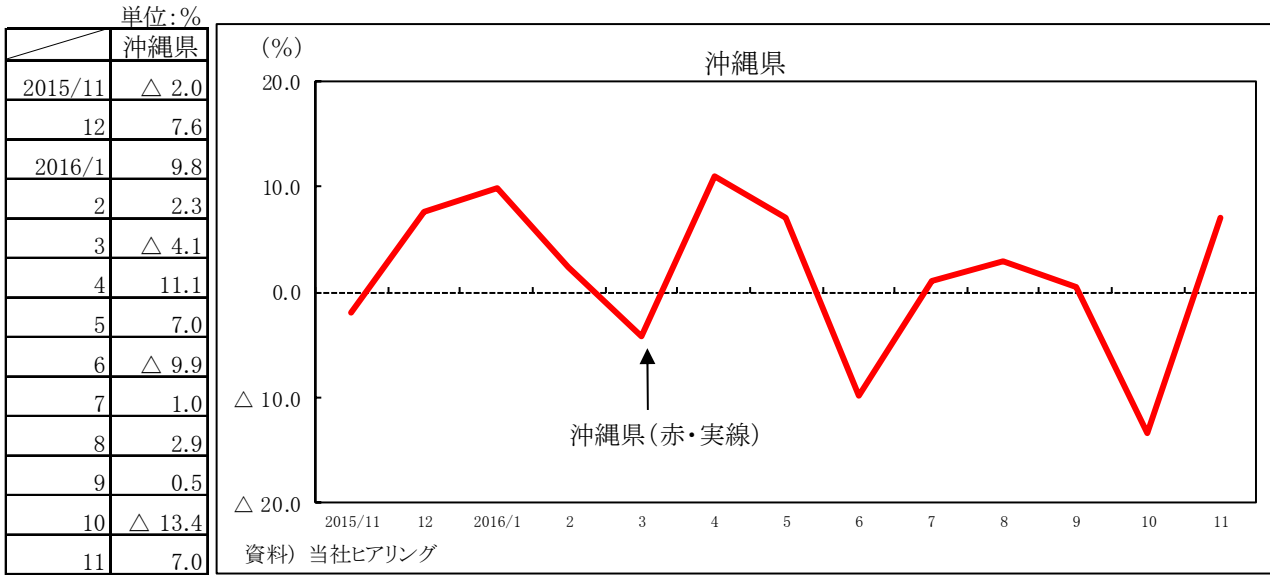


注) 前年同月比

11月の個人消費関連では、スーパー売上高は「全店ベース(前年同月比 3.4%増)」が 20 ヶ月連続で前年同月を上回りました。前年より日曜日が 1 日少なかったものの、新規出店効果などによりウェイトの高い「食料品(同 4.2%増)」などの売れ行きが堅調で、前年同月を上回りました。「既存店ベース(同 3.2%増)」は、店舗改装による集客効果などから、20 ヶ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 3.9%増)」は、一部青果(レタスなどの葉野菜、じゃがいもなどの根野菜)で相場高騰が続いているものの、生鮮全般(精肉・水産・青果)や惣菜の売れ行きが概ね堅調だったことなどから、前年同月を上回りました。また、家電を含む「家庭用品(同 0.5%増)」は、白物家電(洗濯機、冷蔵庫、エアコン)やテレビなどで前年に伸びた反動がみられたものの、インバウンド(訪日観光客)による雑貨(化粧品、小物類)需要が堅調だったことなどから、前年同月を上回りました。また、「衣料品(同 2.6%増)」は、前年に暖冬で落ち込んだ反動などから秋冬物商材の売れ行きが堅調で、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、周年企画の新規催事がみられたものの、物産展の未開催などから集客が伸びず、2 ヶ月連続で前年同月を下回りました(同 5.9%減)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 3.9%増)」は、主力商品である「婦人服(同 6.1%増)」などが、前年に暖冬で落ち込んだ反動や販促強化などから秋冬商材の売れ行きが堅調で、前年同月を上回りました。一方で、「身の回り品(12.7%減)」は、婦人靴・バッグなどのテナント減少やブライダル需要の減少などから売れ行きが低調で、前年同月を下回りました。「食料品(同 10.5%減)」は、生鮮(精肉、水産)や惣菜などの売れ行きが堅調だったものの、一部青果で相場高騰が続いているほか、物産展の未開催などから、前年同月を下回りました。また、「雑貨(同 2.6%減)」は、主力商品である化粧品などで継続的なインバウンド需要がみられたものの、前年に大きく伸びた反動減などから、前年同月を下回りました。

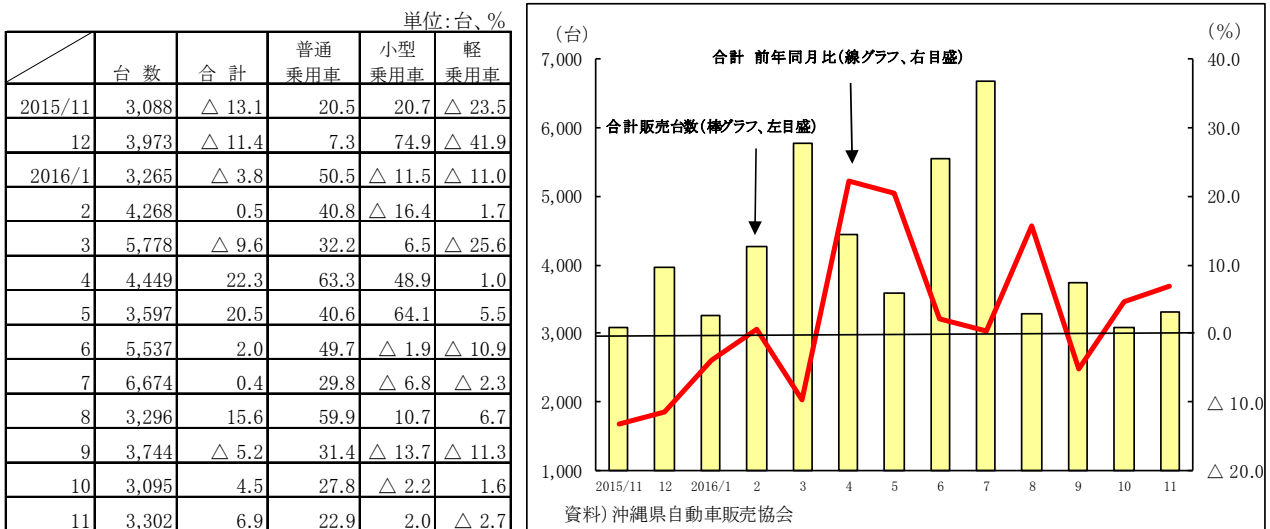
②家電卸出荷額…冷蔵庫やエアコンの売上増加などにより、前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、冷蔵庫やエアコンの売上増加などにより、2 ヶ月ぶりに前年同月を上回りました(同 7.0%増)。品目別では、「テレビ(同 17.8%減)」は4K テレビの新型商品効果がみられたものの、前年に伸びた反動などから、前年同月を下回りました。一方で、「冷蔵庫(同 14.7%増)」や「洗濯機(同 10.6%増)」などは、新型商品効果や販促強化などにより高価格帯商品の売れ行きが堅調で、前年同月を上回りました。また、「エアコン(同 43.1%増)」は、気温が高く推移したことなどから売れ行きが堅調で、前年同月を上回りました。

③新車販売台数…普通乗用車などの需要増加から、前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

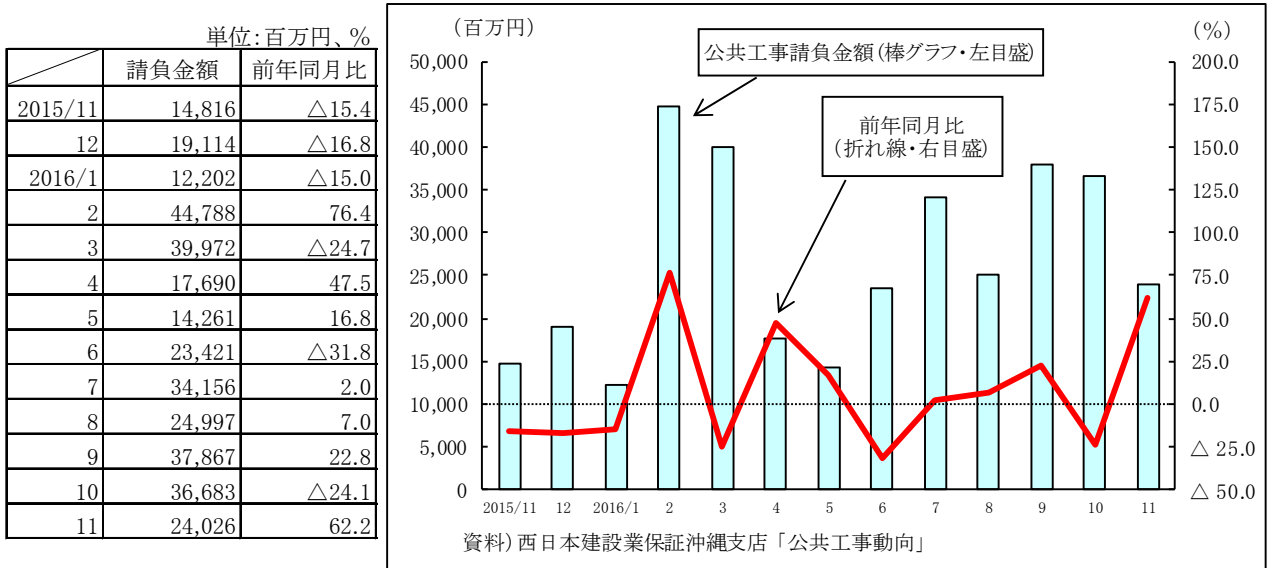
新車販売台数は、全体で3,302台(同 6.9%増)となり、2 ヶ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、レンタカー需要の増加などから「普通乗用車(同 22.9%増)」は 14 ヶ月連続、「小型乗用車(同 2.0%増)」は 3 ヶ月ぶりに、それぞれ前年同月を上回りました。一方で、「軽乗用車(同 2.7%減)」は、軽自動車税増税の影響が続いていることなどから、2 ヶ月ぶりに前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



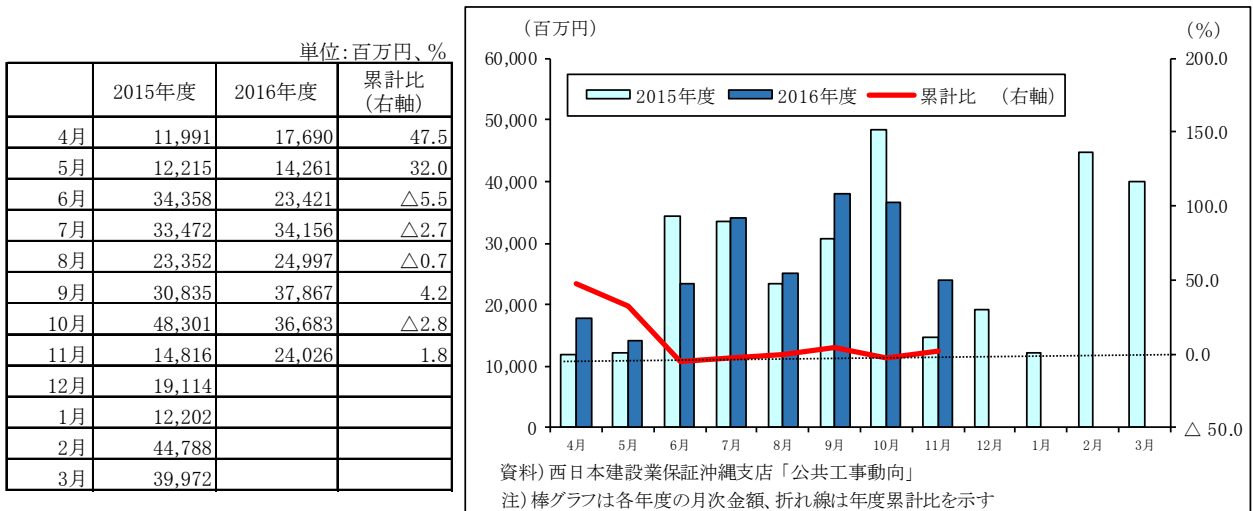
■ 建設関連: (やや良い)

①公共工事…公共工事請負金額は前年同月を上回る。



11月の公共工事請負金額は、前年同月比62.2%増の240億2,600万円となりました(2ヵ月ぶり増)。発注者別でみると、「国(同14.0%減)」や「独立行政法人等(同74.5%減)」は前年同月を下回ったものの、「沖縄県(同44.9%増)」は宜野湾市内での浄化センター関連工事や本部町内での港湾関連工事などの大型工事、「市町村(同112.2%増)」は多良間村での製糖施設工事、宜野座村での設備整備工事などの大型案件、「その他の公共的団体(同150.1%増)」は那覇港総合物流センター(仮称)関連工事などの大型工事があり前年同月を上回りました。

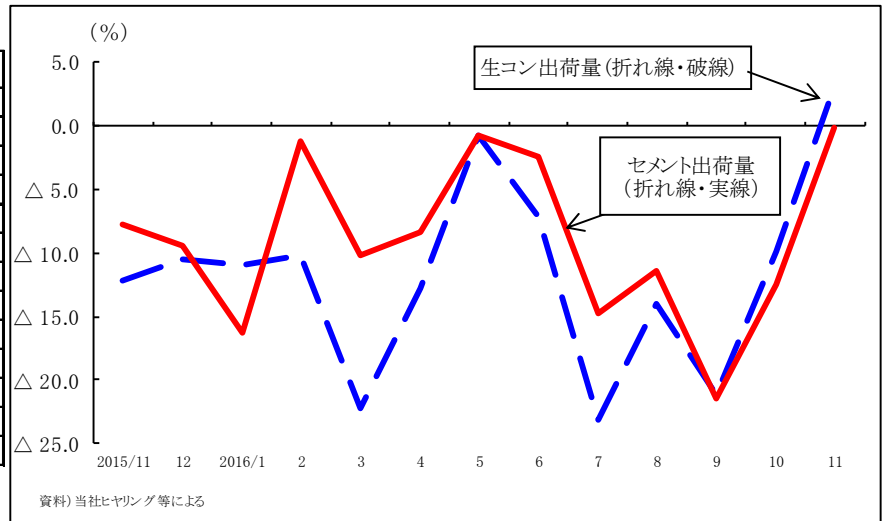
【参考】公共工事(年度累計)…公共工事請負金額は前年同期を上回る。



今年度4～11月までの累計を前年度同期と比較すると、1.8%増となっています。(上記折れ線グラフ)

②建設資材…生コンは前年同月を上回り、セメントは横ばい。

単位:前年同月比(%)		
	生コン	セメント
2015/11	△ 12.2	△ 7.7
12	△ 10.5	△ 9.4
2016/1	△ 11.0	△ 16.3
2	△ 10.2	△ 1.2
3	△ 22.2	△ 10.2
4	△ 12.7	△ 8.4
5	△ 0.7	△ 0.7
6	△ 7.1	△ 2.4
7	△ 23.1	△ 14.8
8	△ 14.0	△ 11.4
9	△ 21.2	△ 21.4
10	△ 9.9	△ 12.4
11	3.0	△ 0.1

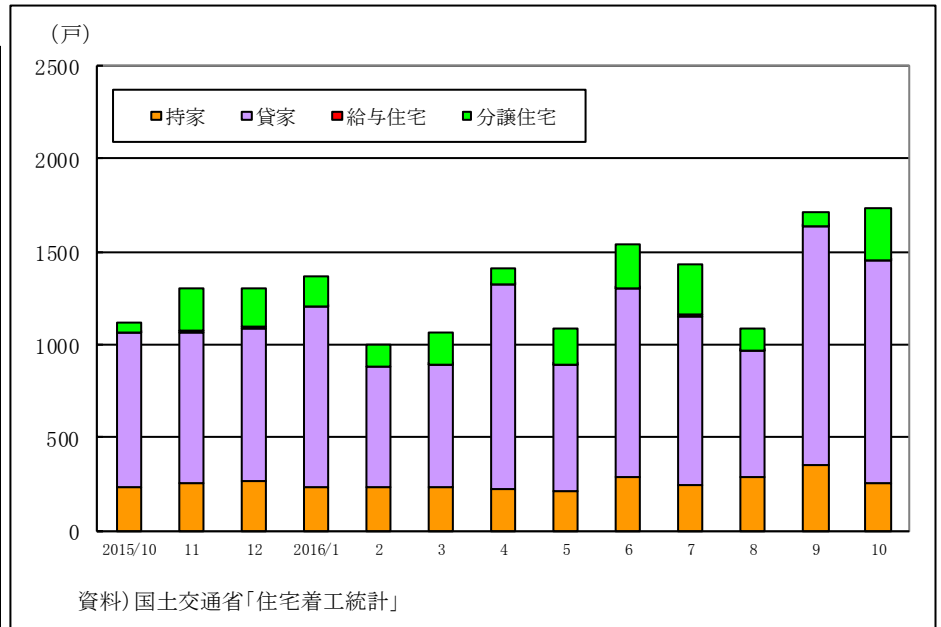


(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は 3.0%増と 14 ヶ月ぶりに前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より 5.3%下回ったものの、民間工事向け出荷が 7.9%上回りました。セメント出荷量は 0.1%減と前年並みで推移しました。

【参考】住宅投資(10月)…着工戸数は前年同月を上回る。

単位:戸、%		
	着工戸数	前年同月比
2015/10	1,118	9.8
11	1,306	7.4
12	1,306	△4.5
2016/1	1,366	15.7
2	1,000	△25.3
3	1,062	8.4
4	1,409	20.2
5	1,085	△13.5
6	1,535	△16.0
7	1,432	5.1
8	1,082	△38.7
9	1,714	12.2
10	1,731	54.8



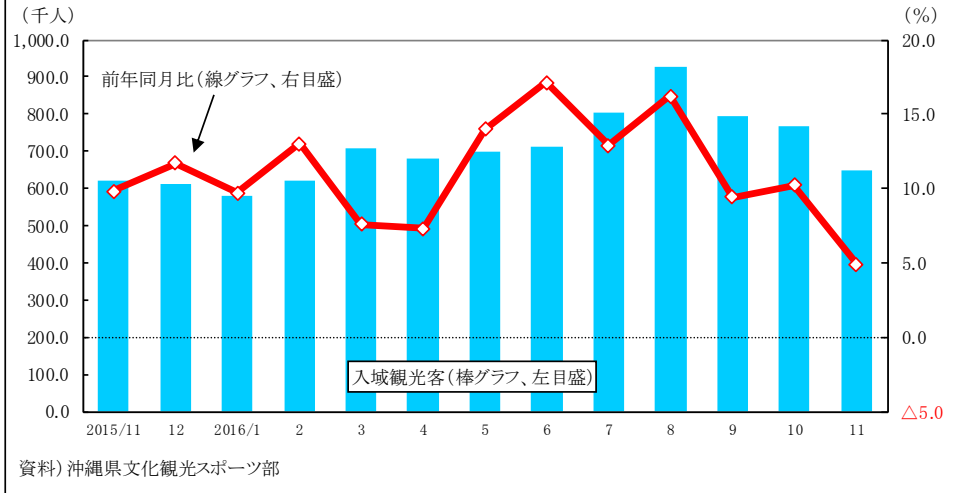
新設住宅着工戸数(10月)は、全体で前年同月比 54.8%増の 1,731 戸と 2 ヶ月連続で前年同月を上回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同 44.7%増)」や「持家(同 8.8%増)」が前年同月を上回ったことに加えて、前年の水準が低かった「分譲住宅(同 461.2%増)」も大幅に上回りました。



■観光関連： (良い)

①入域観光客数(国内客・外国客の合計)…50ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2015/11	619.6	9.8
12	613.6	11.7
2016/1	581.6	9.7
2	622.5	13.0
3	709.2	7.6
4	681.5	7.3
5	697.1	14.0
6	714.4	17.1
7	805.8	12.9
8	926.9	16.2
9	793.0	9.4
10	767.9	10.2
11	650.2	4.9

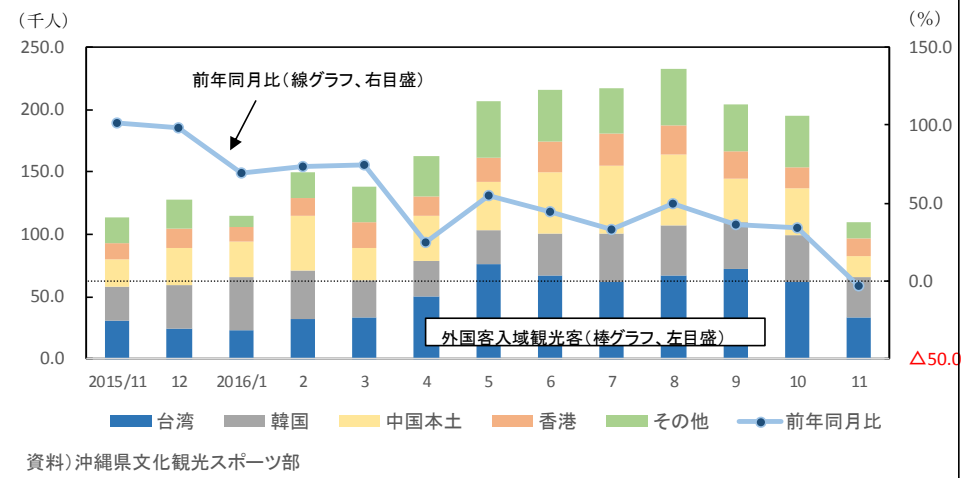


※外国客は乗務員等を含む

※上記2016年5月の数値については、沖縄県よりホームページにて数値訂正の公表(2016年8月19日付)があったことから遡って修正した。

外国客 入域観光客数…40ヵ月(3年4ヵ月)ぶりに前年同月を下回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2015/11	113.4	101.1
12	128.3	98.3
2016/1	114.9	69.2
2	149.9	72.9
3	137.9	74.6
4	162.2	24.2
5	206.5	54.5
6	215.9	44.7
7	217.3	33.3
8	232.0	50.0
9	203.4	36.0
10	194.7	34.2
11	110.2	△2.8



※外国客は乗務員等を含む

11月の入域観光客数は、30,600人多い650,200人(前年同月比4.9%増)となり、50ヵ月連続で前年同月を上回りました(11月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同6.7%増)」は540,000人と、各航空会社による航空路線の拡充が夏季以降継続している事などから、各方面からの路線(羽田、成田ー那覇、関西ー宮古等)の入込が好調に推移し、8ヵ月連続で前年同月を上回りました。他方、「外国客(同2.8%減)」は、110,200人と40ヵ月(3年4ヵ月)ぶりに前年同月を下回りました。台湾、韓国、香港においては航空路線の拡充等により前年同月を上回ったものの、中国本土においてクルーズ船の寄港回数減少(前年同月:13回⇒本年11月:7回)*、航空路線縮小の影響により入込が減少したことなどから、前年同月を下回りました。

「台湾(同7.2%増)」「韓国(同22.3%増)」「中国本土(同26.1%減)」「香港(同10.9%増)」

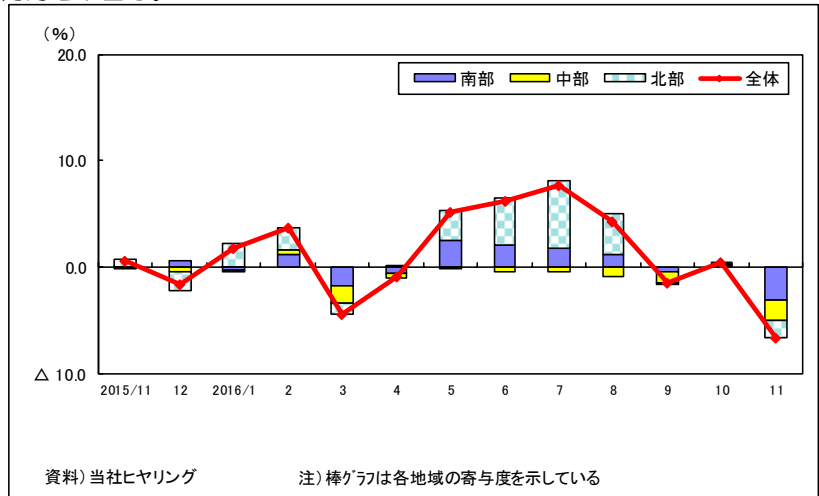
※上記クルーズ船の寄港回数については、海外クルーズ船の沖縄地域への入域回数をカウントしていることから、沖縄地域内における同一クルーズ船の複数寄港による重複分はカウントしていない。

※乗務員等を除く2016年11月実績=全体643,100人(同5.9%増)、外国客103,100人(同2.1%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数…2ヵ月ぶりに前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2015/11	0.6	△0.4	0.3	1.7
12	△1.6	1.4	△3.6	△3.8
2016/1	1.8	△0.7	△1.4	4.6
2	3.7	3.3	3.5	4.0
3	△4.4	△4.6	△11.4	△2.2
4	△0.9	△1.5	△3.0	0.3
5	5.2	6.5	△0.8	5.7
6	6.2	5.2	△3.6	9.2
7	7.7	5.1	△3.1	11.8
8	4.3	3.5	△6.9	7.3
9	△1.5	△1.3	△8.5	△0.1
10	0.5	0.3	1.4	0.4
11	△6.6	△7.4	△13.6	△3.7



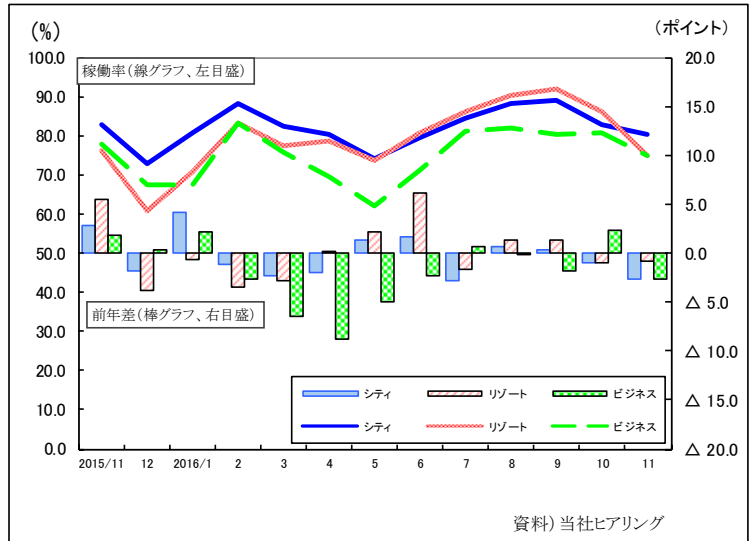
*調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設

観光施設入場者数は、全体で前年同月より6.6%減少(2ヵ月ぶり)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同7.4%減と2ヵ月ぶり、中部は同13.6%減と2ヵ月ぶり、北部は同3.7%減と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

③ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %, ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2015/11	82.9	76.0	77.6	2.9	5.5	1.9
12	72.8	60.9	67.4	△1.8	△3.8	0.3
2016/1	80.5	70.9	67.3	4.2	△0.6	2.2
2	88.3	83.3	83.4	△1.2	△3.5	△2.7
3	82.3	77.3	75.9	△2.3	△2.8	△6.5
4	80.1	78.6	69.3	△2.0	0.2	△8.8
5	74.2	73.5	62.2	1.3	2.1	△4.9
6	79.6	80.7	71.3	1.6	6.2	△2.3
7	84.4	86.2	81.3	△2.8	△1.7	0.7
8	88.1	90.4	82.0	0.6	1.4	△0.2
9	89.2	92.1	80.4	0.3	1.4	△1.8
10	82.9	86.2	80.9	△1.0	△1.0	2.3
11	80.2	75.1	75.0	△2.7	△0.9	△2.6



注)シティ9ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

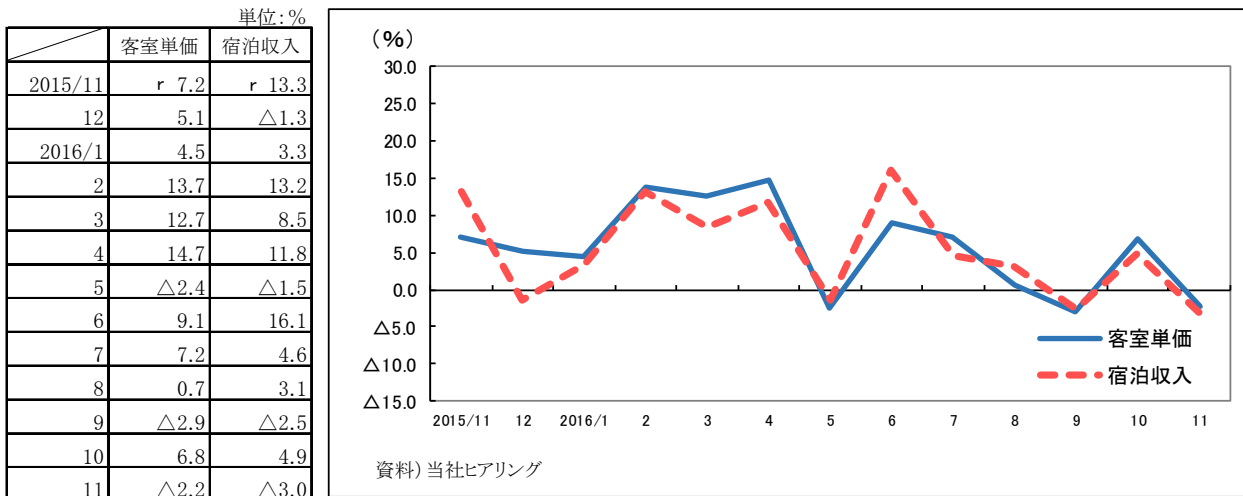
注)2015年10月より、シティホテル対象施設数に変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

注)2016年4月より、リゾートホテル対象施設数に変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが80.2%と2.7ポイント減少(2ヵ月連続)、リゾートホテルが75.1%と0.9ポイント減少(2ヵ月連続)、ビジネスホテルが75.0%と2.6ポイント減少(2ヵ月ぶり)しました。

④ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。



※対象施設数:27施設(シティ9、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は27施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2015年10月より、シティホテル対象施設数が変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 2.2%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同3.0%減と前年同月を下回りました。

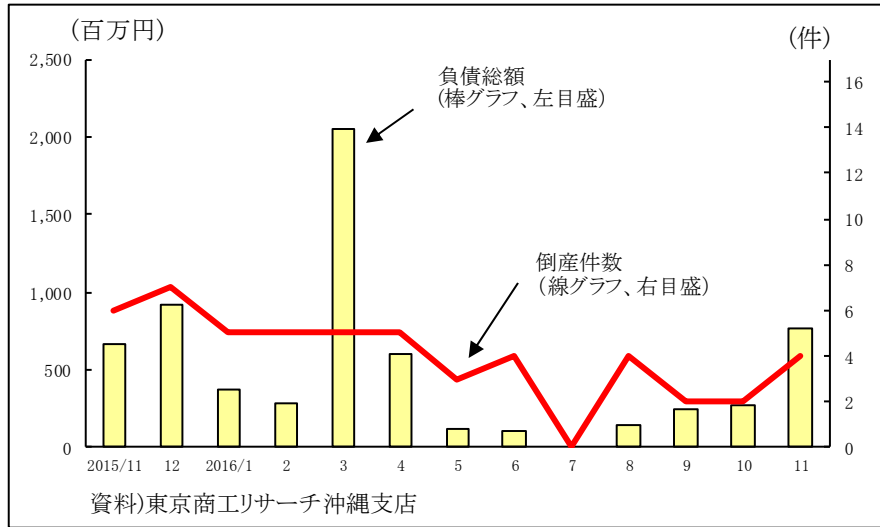


■企業倒産: (やや良い)

企業倒産…件数は前年同月を下回り、負債総額は上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2015/11	665	6
12	919	7
2016/1	375	5
2	282	5
3	2,050	5
4	596	5
5	122	3
6	110	4
7	0	0
8	143	4
9	240	2
10	270	2
11	770	4



11月の**企業倒産件数**は、4件(うち大口倒産は1件)となり、前年同月より2件減少(同33.3%減)しました。負債総額は7億7,000万円となり、前年同月より15.8%増加しました。

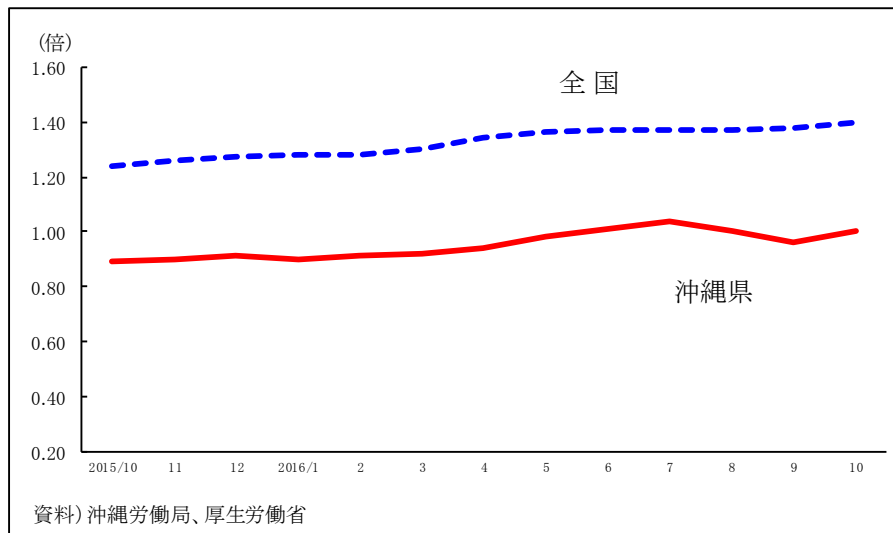


【参考】雇用関連: (良い)

(参考)有効求人倍率(10月)…沖縄、全国はともに前月より上昇。

単位:倍

	沖縄県	全国
2015/10	0.89	1.24
11	0.90	1.26
12	0.91	1.27
2016/1	0.90	1.28
2	0.91	1.28
3	0.92	1.30
4	0.94	1.34
5	0.98	1.36
6	1.01	1.37
7	1.04	1.37
8	1.00	1.37
9	0.96	1.38
10	1.00	1.40



注) 季節調整済

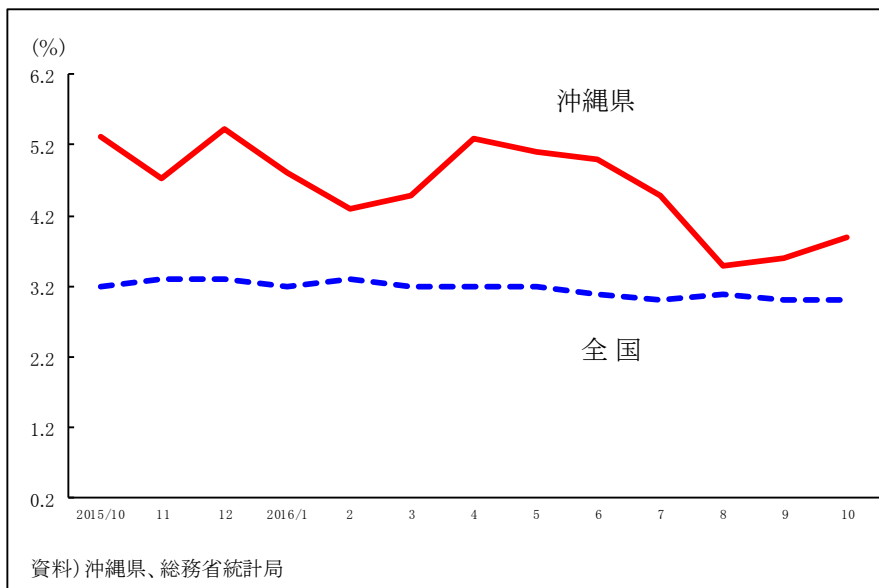
注) 季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

10月の**雇用状況**は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比2.3%増の26,434人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.2%減の26,513人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.00倍となり前月より0.04ポイント上昇しました。

(参考) 完全失業率(10月)…前月より上昇。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2015/10	5.3	3.2
11	4.7	3.3
12	5.4	3.3
2016/1	4.8	3.2
2	4.3	3.3
3	4.5	3.2
4	5.3	3.2
5	5.1	3.2
6	5.0	3.1
7	4.5	3.0
8	3.5	3.1
9	3.6	3.0
10	3.9	3.0

注) 季節調整済



10月の完全失業率(季節調整値)は、3.9%となり前月より0.3ポイント上昇しました。